



第63回日本老年医学会学術集会

スポンサードセミナー ②

慢性疼痛 ～脊椎脊髄疾患の神経障害性疼痛と慢性腰痛を中心に～

2021年6月11日(金) 11:40~12:40

WEB開催

座長

神崎 恒一 先生

杏林大学医学部 高齢医学 主任教授

演者

今釜 史郎 先生

名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻 運動・形態外科学 整形外科/リウマチ学 教授

超高齢社会において慢性疼痛の有訴率が増加し、さらに2020年に端を発したコロナ禍において適切な疼痛治療が求められている。近年、疼痛治療薬の選択肢が増え、疼痛分類別の治療ガイドラインも複数発行されており、医師はより有効なエビデンスのある薬剤を理解しておく必要がある。疼痛は侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛に分類されるが、脊椎脊髄疾患ではここに心因的要素が関与することも多く病態把握を複雑にしている。日本脊椎脊髄病学会による脊椎慢性疼痛患者に関する全国調査では、神経障害性疼痛の割合は53%であり、神経障害性疼痛の危険因子として高齢、強い疼痛、長期罹病期間(6ヶ月以上)、脊髄疾患が同定され、神経障害性疼痛患者は有意に生活の質が低いと報告されている。

当科では脊髄腫瘍など高度脊髄障害を有する患者が多いため、運動機能改善のみならず神経障害性疼痛の治療にも直面しており、これらの手術成績を疼痛評価とともに紹介する。また北海道八雲町の一般住民健診(Yakumo study)も30年以上長期間継続しており、特殊な脊髄疾患のみならず一般中高齢者における神経障害性疼痛や腰痛の特徴を、近年注目されている脊椎アライメントやロコモティブシンドローム、フレイルともに概説する。

腰痛に関しては、2019年に改訂された腰痛診療ガイドラインに策定委員として従事したため、その内容についても触れたい。また日本脊椎脊髄病学会プロジェクト委員会では慢性腰痛の薬物治療に関する全国多施設研究を行い、慢性腰痛薬物治療効果に影響する背景因子を解析したので報告する。

慢性疼痛治療に単一の治療方法はなく、患者背景に応じた個別の治療が求められることから、その治療は未だ容易ではない。本セミナーを通じ脊椎脊髄疾患における慢性疼痛の特徴と治療効果に関する理解とともに、先生方の疼痛治療の一助となれば幸いである。

共催：第63回日本老年医学会学術集会/日本臓器製薬

日本臓器製薬